

科目区分：実習科目  
授業科目名：地域連携実習 3  
登録学生数：5名

### 地域連携実習 3 で育成する授業力

所属・氏名：英語教育講座 立松大祐

#### 1. はじめに

「地域連携実習 3」は教職大学院の授業科目である。教職大学院の学生は1年生で「地域連携実習 1」、2年生で「地域連携実習 2」を履修し、観察実習や授業実習を通して学校現場での実践力を高めている。「地域連携実習 3」とは、「地域連携実習 2」の履修中に実習校で行う授業研究会と協議会のことを指すものである。授業の目的は、授業づくりと授業改善の往還による授業力の向上を目指すものである。

#### 2. 授業の実施方法の概要

履修者5名による授業研究班をつくり、各履修者が、それぞれの「連携校実習 2」の実習校において10月以降に研究授業を行う計画である。授業者以外の班員は各校で行われる研究授業を観察し、研究協議を行う。研究授業・研究協議には実習校教員、大学の実務家・研究科教員、M1の参加希望者が参加する。

5名の履修者は、研究授業ごとに「研究授業」「研究協議司会」「研究協議記録1」「研究協議記録2」「観察レポート」の役割を行って授業研究並びに協議の運営をする。それぞれの研究授業において役割をローテーションする。本年度は、清水小学校（4年生学級活動）、味酒小学校（6年生道徳）、道後小学校（5年生社会）、東雲小学校（6年生道徳）、松山西中等教育学校（4年生国語）で実習を行った。授業は各学級教室で、研究協議は各校の教室や会議室など、また、大学院の教室を使用して実施された。

授業研究を行うにあたり、各授業者は指導観を明らかにし、授業の構想を立て、学習指導案を作成し、授業に臨み、授業後に授業評価を行い、改善策を講じ、次の授業に生かすことが求められる。次に示す図は、授業研究を中心とした履修者のための学修事項と提出物をまとめたものである。本授業においては、Moodleのフォーラム機能を活用し、学習指導案やその他提出物の提出とそれに対する他の受講者からのコメントなどのやり取りをウェブ上でも行い、互いの参加・貢献の様子が分かるようにしている。

<b>授業研究に向けて－事前－</b>
○学習指導案の作成・配信（2週間前までに） ○学習指導案の検討（指導・助言・意見交換） ○検討後の学習指導案の配信（3日前まで）
<b>授業研究－当日－</b>
○「授業観察の視点」を踏まえた授業観察 ○協議の焦点化に向けた授業記録 ○「授業観察の視点」に基づく自評 ○課題の分析と協議内容の焦点化 ○授業改善に向けた協議・模擬授業 ○指導・助言
<b>授業研究を終えて－事後－</b>
○受講記録の作成・提出 ○改善学習指導案の作成・配信（約1週間以内） ○授業改善の報告書作成
<b>提出物</b>
<b>【授業者】学習指導案</b> <b>【授業者】学習指導案作成までの助言・コメントの要旨（A4用紙1枚）</b> <b>【授業者】改善指導案（研究授業と研究協議からどのような学びや気づきがあり、どのような変更を加えたかについてメモを付記し、改善学習指導案を作成することにより授業改善レポートと兼ねる。）</b> <b>【研究協議記録】研究協議記録</b> <b>【観察レポート】観察レポート（A4用紙2枚程度）</b>

Moodleのフォーラムでのやり取りの例を下に示す。投稿者の名前が分からないよう、AAABBBなどの表記にしている。最初のポストは、観察を行う学生からのコメントと質問であり、2つ目のポストは、質問についての授業者からコメントであり、互いの意見や考えを真摯な態度で交換しているのが分かる。このようなやり取りが何度も行われ、学習指導案の修正が行われている。

**Re: 本案 20191112 特別の教科 道徳「変わっていきぼくの心」**

2019年 10月 22日(火曜日) 15:10 - AAABBB の投稿

拝読させていただきました。

お互いが話しやすいように学習形態を工夫したり、全員が意思表示できるように赤白帽子を活用したりしているため、子どもたち全員が安心して授業に参加できるという環境づくりに力を入れているのが伝わってきました。

さて、2点ほど質問があります。

1つ目は、6年3組の児童たちは、日ごろから話し合いの際にサークル形態になって話し合いを行っているとのことでしたが、子どもたちにとってどのくらい親しまれているのかが気になりました。そこで、竹本さんが実習の中で見てきた範囲でよいので、どの授業において、どれくらいの期間、どれくらいの頻度でサークル形態の授業が取り入れられているのでしょうか？

2つ目は、資料「変わっていきぼくの心」を読ませてもらいましたが、さまざまな場面に着目することができ、さまざまな発問が浮かんだのではないかと思います。BBBAAAさんが今回添付した指導案の中の発問以外で、考えた発問があれば教えてください。きっと、教師がさまざまな発問を準備しておくことで授業の中で役に立つのではないのでしょうか。

よろしく願いいたします。

**Re: 本案 20191112 特別の教科 道徳「変わっていきぼくの心」**

2019年 10月 22日(火曜日) 17:29 - BBBAAA の投稿

コメントありがとうございます。

1については、1学期当初から子どもたちはサークル対話を行っています。道徳ではほぼ毎回しているので、少なくとも週1回以上はしているのではないかと思います。道徳以外の時間では、修学旅行から帰ってきて「平和について私たちにできることは？」について話し合ったり、昨年のいじめSTOPアカデミアで紹介された「人間関係向上プログラム」を朝の時間にしたりしています。担任の先生と試行錯誤しているところでもありますので、授業当日、サークル対話のあり方についてご指摘いただけたらと思います。

2については、「誰に対しても同じように接しなければならないのだろうか」「ぼく」はなぜ変わることができたのだろうか」「自分が苦手だと思った相手とどのように関わっていきよいだろうか」「ぼく」は何に気づいて変わることができたのだろうか」などを考えていました。いくつか指導

案を作り、「ぼく」に自我関与させるような授業にする事も考えましたが、子どもたちの実態や発問の内容から本音が出やすいのが本指導案であると思い、決めました。

わかりにくいところ、詳しく知りたい所があれば、またご質問ください。

3. 学生のアンケート結果（授業評価）と課題

授業評価はDP調査のアンケート項目により実施されている。「知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。」「技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。」「思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。」「興味・関心・意欲、態度：教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。」という基本的な調査項目については、どの履修者も肯定的評価を行っている。

「この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間は平均で一週間に何時間程度ですか。」という項目について、2-3時間の回答が多い中、10時間と回答している履修者がいた。社会科の主発問などを考える際にかかなりの先行研究を行った証である。また、「この授業を受けて、自分で自発的に読んだ本や論文の数はいくつですか。」の質問に対して、3冊から6冊との回答を得ている。大学院生として、真摯に研究と実践に取り組もうとしている様子が伺われる。

本授業のオリジナルの設問として次の3つを追加した。「連携校実習3をとおして、授業を構想する力が向上した。」については、3名が「とてもそう思う」、2名が「ある程度そう思う」と回答した。「連携校実習3をとおして、指導力が向上した。」は、2名が「とてもそう思う」、3名が「ある程度そう思う」と回答した。「連携校実習3をとおして、授業実践を省察する力が向上した。」については、4名が「とてもそう思う」、1名が「ある程度そう思う」と答えており、総合的に指導力が向上したと考えていることが分かる。

課題としては、履修者が5名と少人数であったことである。ストレートマスターの学生を対象に

していることもあるが、履修者を増やすために指導教員からの協力が必要である。

#### 4. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」

実習校での取組である本授業は、まさに地域社会を核とした教育と研究のつながりを目指したものである。大学院での研究テーマに関わる研究成果を、教育実習の場で実践につなぎ、指導力向上についての知識とスキルを獲得することを目的としているからである。この実習をとおして、履修者は児童生徒の多様性への対応など、学校教育において中心的指導的な役割を果たし、豊かな地域教育の推進に貢献できる人材に育つことを期待している。